

令和6年7月

文

月

あ お ぞ ら

鹿屋市青少年育成センター

第401号

鹿屋市共栄町20-1 TEL 31-1138
(鹿屋市教育委員会 生涯学習課)

「年輪を重ねる」

鹿屋市立鹿屋東中学校 校長 祝 健二郎

「樹木の年齢は年輪の数で分かるんだ。だから、樹木は1年1年、成長しているんだよね。」との言葉を、小学校の頃、担任の先生から聞き、驚いたことを今でも覚えています。当時、校庭にあった樹木を伐採した切り株を利用して作った椅子の円状に広がる輪を見て感じた私の疑問に答えてくれたのです。

ところで、鹿屋市では全小・中学校においてコミュニティ・スクールを推進しています。コミュニティ・スクールとは学校運営協議会を設置している学校のことです。コミュニティ・スクールは、学校運営や学校の課題に対して、広く保護者や地域の方々が参画できる仕組みとなっています。

これからの学校は「開かれた学校」から更に一步踏み出し、地域でどのような子どもたちを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを地域住民等と共有し、地域と一体となって子どもたちを育て「地域とともにある学校」へと転換していくことが大切になります。

本校では、学校運営協議会委員を町内会長、保護者等の10人で構成し、年3回(5月、10月、2月)、協議会を開催しています。委員は、経営方針の承認、学校運営への意見等を述べるなどしています。

学校は教育目標の達成のために、教育課程を基に様々な取組を行っています。その中で、校長として、決断に至るまでの判断が必要となり、この判断に苦慮することが多々あります。これまでの経験則は基より学校の実態、社会情勢等を踏まえ、判断をするのですが、

校長として判断を基に決断したことは決して誤ることはできないため慎重になります。

昨年度、正門入口の花園に老朽化した樹木があり、安全面から伐採の必要性があると考え、委員の方々に現状を見てもらい、協議会で課題として熟議しました。全員が伐採する必要があると賛成してくれましたが、併せて当時、植樹した保護者に意見を聞いた方がいいとの助言もいただきました。

早速、翌日に当時のPTA会長が来校され、樹木への思いを話してくれました。「本校が開校したことを多くの方々が喜び、良き学校になってもらいたいとの思いを込め記念樹として植樹したことを考えると伐採しないでほしい気持ちが大きい。でも、安全面を考えると伐採も致し方ないと思います。」との言葉が断腸の思いであることを表情から窺い知ることができました。

結果として当初の伐採するとの判断は変わらなかったものの、愛校心を直に聞くことが、地域とともにある学校として伝統を継承する上で大切だと再認識しました。

「年輪を重ねる」という言葉があります。樹木が年月を重ねるごとに年輪が増え、木が太く大きくなることから、人が色々な経験をして成長することを表しています。これからの学校は、誰一人取り残すことのない持続可能な社会の創り手の育成が求められています。本校でも、年輪を重ねるよう日々、ひいては1年毎の教育活動を充実させ、子どもが成長を体感できる夢実現に向けた取組を行っていきたくと志を強くしているところです。